

令和4年度学校評価の結果と考察

- ・ 328 世帯中、235件のご回答をいただいた（回答率71.6%）。
- ・ 設問1では、回答いただいた235世帯の児童の在籍する学年を回答いただいた（複数回答）。各学年の在籍児童数と回答数及び回答率は下表のとおり。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
在籍数（人）	96	71	79	58	57	69	430
回答数（人）	49	43	38	37	24	44	235
回答率（%）	51.0	60.6	48.1	63.8	42.1	63.8	54.7

- ・ 設問2～21では、保護者から見た「我が子」と「寺崎小の児童」を分けて評価していただいた。
- ・ 評価方法（基準）について、昨年度まではA（肯定的）～D（否定的）の4段階と、コロナ禍の影響で学校や児童の実態が分からない（評価不能）保護者が一定数いることを考慮し、「E 評価できない」を加えた。
- ・ 以下の各設問の肯定的回答（A、B）の割合は、総回答数235件から「E 評価できない」の数を差し引いて割り返したものである。
- ・ 設問の右側（今年度、前年度）の数値の単位は%。百分率は小数第2位を四捨五入して表記した。
- ・ 赤の数値…「今年度」80%に満たない、「前年比」4%以上の増減

【保護者から見た我が子の様子】

No	設 問	今年度	前年度	前年比
2	お子さんは、楽しそうに学校に通っている。	93.2%	89.7%	3.5%
3	お子さんは、友達と仲よく生活している。	96.6%	93.9%	2.7%
4	お子さんは、「授業が楽しい」と言っている。	79.0%	80.5%	-1.5%
5	お子さんは、気持ちのよいあいさつや返事をしている。	75.7%	70.8%	4.9%
6	お子さんは、ご家庭でも学習や家の仕事（手伝い等）に積極的に取り組んでいる。	67.8%	76.5%	-8.7%

【保護者から見た寺崎小の子どもの様子】

No	設 問	今年度	前年度	前年比
7	寺崎小の子どもたちは、楽しそうに学校に通っている。	95.4%	95.1%	0.3%
8	寺崎小の子どもたちは、友達と仲良く生活している。	96.4%	94.0%	2.4%
9	寺崎小の子どもたちは、「授業が楽しい」と言っている。	81.3%	80.9%	0.4%
10	寺崎小の子どもたちは、気持ちの良いあいさつや返事をしている。	74.2%	69.2%	5.0%

- ・ 挨拶や返事に関する設問（No5、No10）については、前年度比が5%程度上昇した。挨拶については、学校内だけではなく、家庭、地域でもしっかりと行うことができるように、児童会等でも活動を進めてきた。一定の成果が表れたものにとらえない。
- ・ 設問6「学習や家の仕事（手伝い等）に積極的に取り組んでいる」かについては、前年度比8.7%と大きく落ち込んでいる。各学年の発達の段階に応じた家庭での役割や、家庭学習の大切さについて、引き続き学校でも指導していきたい。

【教職員の取り組み】

No	設 問	今年度	前年度	前年比
11	教職員は、子どもの基礎的な学力が身に付くよう指導している。	91.0%	91.7%	-0.7%
12	教職員は、子どものよさを認め、ほめて励ましている。	90.4%	89.5%	0.9%
13	教職員は、子どもに応じた指導や配慮をしている。	87.3%	88.1%	-0.8%
14	教職員は、いじめや仲間はずれをしない学級づくりをしている。	90.2%	92.6%	-2.4%
15	教職員は、たくましい子どもに育つよう体力づくりの指導をしている。	82.6%	85.2%	-2.6%
16	教職員は、子どもの発育や健康、衛生について配慮している。	93.8%	93.6%	0.1%

- ・ 概ね前年と同水準と見てよいが、設問14と設問15の減少が2%を超えている。特に設問15「たくましい子供に育つように体力づくりの指導をしている」の項目については、一昨年度は88.4%あったものが、2年続けて2%の減少を続けている。今年度は年間を通して、「なわとび」運動に取り組むなど、体力向上について取り組んできたが、2年以上続くコロナ禍の運動制限による影響を解消できるものではなかったのかもしれない。
- ・ コロナ禍の様々な制限が大幅に解消されるであろう次年度は、引き続き感染予防を図りながら、更なる体力向上に取り組んでいく必要がある。

【学校経営全般】

No	設 問	今年度	前年度	前年比
17	学校は、学校教育目標の具現化に向けて効果的な教育活動を実践している。	83.5%	87.6%	-4.1%
18	学校は、新型コロナウイルス等感染予防と学習機会の保障の両立に向けて、適切に教育活動を進めている。	89.5%	79.4%	10.1%
19	校舎内・校庭はよく整備され、子どもが学習や生活をしやすい環境となっている。	93.1%	92.6%	0.5%
20	学校は、学校(学年)だよりやホームページ、メールなどで教育活動についての情報発信に努めている。	89.8%	89.0%	0.8%
21	学校は、保護者・地域の願いを受け止める努力をしている。	85.6%	81.2%	4.4%

- ・ 設問17「学校教育目標の具現化に向けて効果的な教育活動を実践している」かでは、前年比で4.1%減少してしまった。引き続き効果的な教育目標の実践に向けて、組織的に取り組む必要がある。
- ・ 設問18「感染予防と学習機会の保障の両立に向けて、適切に教育活動を進めている」かについては、前年度80%を下回っていたものが10%程度改善している。3年間に及ぶ新型コロナの制限が、今年度は少しずつ解消されてきた。このため一部の学校行事は、感染予防を考慮した上で形を変えて実施することができた。引き続き、国や県、佐倉市教育委員会から示される指標や対策をもとに、児童の健康と安全を第一とした、より効果的な教育活動の展開を模索していきたい。
- ・ 設問21「保護者・地域の願いを受け止める努力をしている」かについては、昨年度、肯定的な回答率が大幅に低下してしまっ(一昨年度90.1%⇒昨年度81.2%)。今年度は、一昨年度の水準には届かないものの4.4%の改善が見られた。引き続き、学校の取り組みを振り返りながら、事実を真摯に受け止めていきたい。